

集中豪雨と大地震 そのとき

防災力が物を言いつ

娘「ねえ、お父さん。地震や大雨っていつ来るの？」
 父「それは、分からんなあ。だから、みんな防災とかしてるんだよ。」
 娘「防災ってどついうこと？」
 父「だから、いつ来るかわからない災害に備えるってことだよ。」
 娘「うちは備えてるの？」
 父「……。」



上矢作町飯田洞地区中根橋周辺。飯田洞川がはらんし、橋や道路にせり上がってきた流木



上：上矢作町漆原越沢地区。上村川が増水し家屋を飲み込んだ
 下：上矢作町本郷地区弁天橋付近。押し寄せた流木による被害も多かった

2000（平成12）年9月12日、上天作地区を襲った恵南豪雨災害（上部写真）。異常気象が叫ばれている今、豪雨災害の危険性は、ますます高くなってきています。豪雨だけではありません。東海地震は、今後30年の間で87割の確立で発生するといわれています。わたしたちは、過去に起きた災害から何を学び、将来に向けて何をしなければいけないのでしょうか。防災について特集します。

問い合わせ 防災対策課（内線315）

時間最大雨量66ミリを記録した恵南豪雨災害

平成12年9月11日、本土上空に停滞していた前線へ、台風14号からの暖かく湿った空気が流れ込みました。午前0時ごろから県内に降り始めた雨は、次第に激しさを増し、県内各地で、次々と大雨洪水警報が発令されました。

なかでも、異常に降水量が多かったのが上天作町でした。同町の観測所では、9月11日午後11時から午前0時までの1時間に66ミリの時間最大雨量を記録し、降り始めからの総雨量は、423・5ミリに達しました。昭和34年9月の伊勢湾台風とき、東海3県で降水量が多かった三重県尾鷲市でも総雨量203ミリ、時間最大雨量は45ミリでした。このことから、同町の降水量が異常なものであったことが分かります。この豪雨により、がけ崩れや土石流が相次ぎました。河川がはらんし多くの橋が流され、上天作町全域で道路が寸断しました。民家の全壊や浸水、農地の冠水など、未曾有の大災害となりました。

12日から始められた、災害救助活動には多くの人が関わりました。自衛隊からの派遣は、延べ588人。消防団員は、延べ1082人。恵那農業高校や国際ボランティア協会などのボランティアが、延べ580人。総合計にすると、2000人を超える方々が、現地で救助活動に参加しました。

参考資料 恵南豪雨災害記録誌

30年以内に東海地震が発生する確率は87%

市内で発生する災害は、豪雨災害だけではありません。国の地震動予測地図によると、マグニチュード（M）8程度を想定した東海地震は、30年以内に87割の確率で発生するといわれています。

大きな被害をもたらした阪神淡路大震災。地震動予測地図によると、兵庫県南部地域で地震が発生する確率は、わずか0・028割でした。それでも、マグニチュード（M）7・2、震度7の揺れを観測し、死者6千434人、行方不明者3人、負傷者4万3千792人の被害者を出す巨大地震が起きました。

このことは活断層をいくつも抱えている日本列島において、驚きと同時に、地震はいつ、どこで起きてもおかしくないことを日本中に知らしめました。

約98%の人が、家族や近所の人に助けられた

阪神淡路大震災で救助された人の約98割は、家族や近所の人の手によるものでした。消防署や自衛隊によって救助された人は、わずか1・7割。災害での救助活動は時間との勝負です。発生直後に、隣近所で助け合う共助によって、多くの命が救われます。

しかし自分がけがをしては、人を助けることはできません。住宅の耐震補強や家具転倒防止、非常持ち出し品の準備など、まずは自分を助ける自助が最も大切です。

地震などの災害が発生した直後、市役所や消防署はすぐに救出に駆け付けますが、大ききません。災害の規模が、大きくなればなるほど、消防署

次のページでは、非常持ち出し品や家具転倒防止の方法などを紹介します。まずは家族を守るため、できることから始めてください。

家具などの転倒防止

家具などは止め金具などで固定しておきましょう。ここでは、主な転倒防止策を紹介します。これ以外にも、転倒防止策はあります。家具や家に合った方法で対策をしてください。



ベルト式耐震金具
家具を固定する箇所が離れている場合に使用します。



L字金具
家具の背面上部か、背面側部に固定できる箇所がある場合に使用します。



扉の開き防止
地震の揺れによる、扉の開放を防ぎます。食器棚に取り付け、散乱を防ぎます。



固定ボール
釘やネジを使わずに簡単に固定できます。



皿金具
上下が分割している家具を固定します。



家具転倒防止板

家具を固定できない場合転倒防止に、家具の前下部に敷く板。新聞紙を丸めて使用しても効果はあります。



懐中電灯
持ち運びの面からも軽いものが良い。予備電池も忘れずに。



ヘルメット
避難に際して、余震などによる落下物から頭を守ります。



お金
電話は公衆電話しか使えない可能性があるため、小銭を多めに準備しておく。



非常持ち出し品

各家庭でいざという時のために備える非常持ち出し品。災害時、被災地に救援物資が届くまでの3日間程度を自足し、しのぐための備えとなります。1次持ち出し品、2次持ち出し品のリストを参考に、あなたの家庭に合った物を考え、ぜひ用意しておいてください。



携帯ラジオ
被災時の情報の収集は必要不可欠。予備電池も忘れずに。



飲料水
ペットボトルの物であれば長期間保存が可能。1人1日3ℓが目安。



非常食
調理不要で食べることができ、腹持ちのする高カロリーの良いもの。



運動靴
被災時、靴なしでは全く外を歩けない状態になってしまいます。

1次持ち出し品

避難時にすぐに持ち出すべき、必要最低限の備えて、非常時の最初の1日間をしのぐための物。乳幼児のお子さんがある場合は、ミルクやおむつの準備も忘れずに。

非常食 飲料水 懐中電灯 ライター 携帯ラジオ 薬箱 レジャーシート ポリ袋 簡易トイレ トイレシート パーパー タオル 小銭(10円玉) ガムテープ(布製)など

2次持ち出し品

避難した後に、少し余裕ができてから、自宅から持ち出す物。救援物資が届くまでの3日間程度をしのげる分量を用意。

衣類 下着 洗面用具 毛布 卓上コンロ ガスボンベ 固形燃料 鍋 食器 ラップ アルミホイル 石鹸 新聞紙 使い捨てカイロ 雨具 飲料水 食料品など



自宅の電話番号を市外局番から入力します。
音声案内に従い、伝言を再生します。
毎月1日と、8月30日(両)から9月5日(出)の防災週間は、災害伝言ダイヤルを体験できます。

【録音された伝言を聞く場合】
171番をダイヤルし、自動音声案内に従って、②ボタンを押します。
自宅の電話番号を市外局番から入力します。
音声案内に従い、伝言を録音します。
【伝言を録音する場合】
171番をダイヤルし、自動音声案内に従って、①ボタンを押します。
自宅の電話番号を市外局番から入力します。
音声案内に従い、伝言を録音します。

災害伝言ダイヤル「171」

災害時、家族が一緒にいるとは限りません。お互いの安否確認をするために、家族で利用方法を覚え備えをしてください。

無料住宅耐震診断と耐震補強工事の補助

【木造住宅耐震診断】
対象 昭和56年5月31日以前に旧建築基準で建てられた木造住宅
募集期限 平成22年1月29日(金)
募集戸数 100戸(先着順)
費用 無料

【耐震補強工事補助】

対象 木造住宅耐震診断で基準以下と判定された住宅
申込期限 11月30日(月)
助成件数 5件(先着順)
補助率 耐震工事額の7割(上限84万円)

【共通】 建築住宅課(内線239)





災害を伝える

災害体験語り部 松岡昭雄さん

プロフィール
上矢作町下地区に在住。県が設置する「災害体験語り部」として、恵南豪雨災害の被災体験を伝えている。

突然、襲ってきた大量の雨

恵南豪雨災害を語る

も のすごい雨の量。上村川が増水。川の石がころころと鳴り、地面に響きだしたのが午前0時ごろ。

伊勢湾台風の時でも、家の下の道路までは水は漬なかったが、1時間おきに川の様子を見ていた。午前3時半ごろ、2階から階段を降りようとしたら、すでに下から5段目まで水が漬かっていた。

家が流されると思い、貴重品や位牌、タオル、服などをかばんに入れ、妻と二人で玄関に出た。

外はバケツで空けるくらいのもので、雨、身動きもできない。天を仰ぎ、雨が早く止むことを祈りました。二人で励まし合いながら、避難のチャンス待ち、近所の人や、車で避難するところと同

乗せてもらった。避難先で7、8人の人に出会い、ようやくほっとした。

夜が明け、家を見に行くと、1階の部屋は全部、泥と砂で埋まり、車は2台とも屋根だけ出している。あまりにも変わり果てた情景にがくぜんとした。

皆さんが、献身的に救援活動を行ってくれました。「応援するからがんばって」と励まされ、地域の人の温かい人情に触れ、がんばる勇気がわいてきました。

地域住民の助け合いは、被災者の心まで助けるのだと感じました。この地を離れず、今も、こうしてがんばっているのは、皆さんののおかげ

だと感謝しています。こうした地域の助け合いも防災力の1つです。

集中豪雨や大地震など、災害を止めることはできません。だからこそ、自分の経験を多くの人に伝え、その恐ろしさを伝えることで、防災の必要性を考えてもらいたい。

防災力の基盤は人と地域のつながり

消 防団員とは、日ごろは本業を持ちながら、火災や災害などが発生した際に消防活動をする人たちです。

仕事をしながらということもあり、職種柄、重機や大型トラックなどを運転できる団員もいます。さまざまな職種で成り立っている消防団だからこそ、災害時、それぞれの知識を生かしながらの救助活動が可能になります。

また恵南豪雨災害では、上矢作町の団員だけではなく、岩村町から串原まで、当時の各団も協力体制を組み、救援活動を行いました。消防団は組織として動いたとき、各分団、各地域間での助け合いができます。組織として機能する団の力は、とても大きなものとなります。

団 員は、地域に帰れば、自治会の中の一入です。いざというとき、防災リーダーとして、自治会の中で力を発揮します。

地域の実情に詳しく、訓練などで救助方法を知っている団員は、自治会の中でも頼りになる存在です。消防団員が自分の自治会にいるだけでも、防災力が向上するとも言えるでしょう。

自治会の方々にも、防災訓練などで消防団をもっと活用してほしいと思います。防災力向上に向け、団も協力していきます。

多くの方に、団の持つ防災力を知ってもらい、これからの活動や団員確保など、今以上に協力をお願いしたい。地域によって、団の活動と考えると、さまざまな内容

のものがあります。それらの活動の中で、団員同士のつながりや、地域とのつながりが生まれます。そのつながりが、地域を守り、助け合っていくこととする気持ちは、ぐんぐんと考えています。

恵那市消防団 伊藤春正団長

プロフィール
昭和55年に武並分団に入団。平成2年から2年間分団長を歴任。平成14年から団長を務めている。

消防の持つ力



9月6日(日) 防災訓練

訓練開始は8時、
サイレンで合図をします。



訓練想定「午前8時、東海地震の発生により、市内の震度は6弱となった。市内各地で家屋の倒壊、がけ崩れ、火災の発生、ライフラインなどに大きな被害が発生し、けが人が多数発生した。」

防災行政無線、音声告知放送により市内一斉にサイレン吹鳴と訓練であることを呼び掛けます。

家の安全を確認し、隣近所に声を掛け合い、自治会の集会所や広場に参集します。(参集人員の把握を行いますので集計表へ記載をお願いします)

自治会長や、自主防災隊長などの指示により、訓練を実施します。(訓練内容は地域で考えた訓練を実施します。積極的に参加し、いざというときに役立つすべを、身に着けましょう)

防災訓練は8月30日(日)に実施予定でしたが、衆議院議員選挙の投票日のため、9月6日(日)に変更となりました。

防災の 気持ちを 引き継いでいく

大井町鏡山自治会
自治会長 熊谷剛さん

大井町にある鏡山自治会。世帯数は58。ここでは、8年ほど前から自主防災組織を立ち上げ、独自の防災訓練を実施。3年前からは、防災名簿の作成なども行っています。なかでも、防災のために、各家の間取り図を記入してもらい取り組みは特徴的です。その活動と取り組みの内容など、自治会長の熊谷さんに聞きました。

自治会の防災力



鏡 山自治会では、全世帯が加入し、自主防災隊を組織しています。隊は、情報収集班、救護班、炊き出し班など、役割に応じた班体制となっています。

独自の防災訓練として、ことしては、防災センターにある起震車を借り、地震体験訓練を行いました。訓練は、子どもから大人まで、多くの方が参加することが大切なので、自治会の行事やイベントに合わせて計画しています。

防 災名簿と各家の間取り図の作成もしています。名簿は、誰が避難場所に来ていないのか、把握するのにとても有効です。名簿には、年齢や障がいの有無なども記入してもらい、避難する際の援護も考えています。

各家の間取り図は、倒壊家屋などから、短時間で救出するために使います。地震などで家屋が倒壊したときなどの救助活動は一刻を争います。間取りが分かることで、災害が起きた時間、どこにいたかを予測し、効率よく救出作業を行うことができます。寝室にいるだろうと予測ができて

も、その寝室がどこにあるか分からなくては、救助に時間が掛かってしまいます。

名簿など記入する内容は、個人情報です。それでも自治会の皆さんは、災害時の救助活動には、これらが必要だと理解してくれています。

も う一つ特徴的な取り組みがあります。お互い助け合う人を、隣近所で相談して、決めていることです。

相談し合うことで、コミュニケーションを深めていたきたい。地域のネットワーク作りは、防災を考える上で、とても大切です。普段からイベントや行事などを通じて、世代を超えた交流ができるよう心掛けています。

自 治会の役員は、1年で交代します。活動を継続していくために、防災の気持ちを、しっかりと引き継いでいくことが大切だと感じています。消防署や行政ができないから、自主防災をするのではなく、自分たちでできることは自分たちでやる、自分たちの身は、まず自分たちで守ろうというのが、防災の基本だと考えています。